

斑点米カメムシ類及びイネカメムシの防除対策

1. 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ等）
 - ・ けい畔、農道及び休耕田の雑草を除草すること。ただし、出穂期直前の除草は、斑点米カメムシ類の水田への侵入を助長し被害を増加させるおそれがあるため、出穂 10 日前までに完了すること。なお、斑点米カメムシ類は移動・分散能力が高いため、広域で地域一斉に除草すると効果が高い。
 - ・ 水田内のノビエやイヌホタルイ等は、アカスジカスミカメ等の増殖源となることから、確実に除草すること。
 - ・ 発生予察情報等を参考に、出穂期から適期に薬剤散布を実施すること。なお、地域の作型や斑点米カメムシ類の発生状況により異なるが、多くの地域では防除適期（出穂期～登熟期）の 2 回の薬剤散布が推奨されていることから、地域の実情に応じた防除を徹底し、さらに発生が多い場合には追加の薬剤散布を実施すること。
 - ・ カスミカメムシ類は、登熟後期に籾の内外穎のわずかな隙間や割れ籾の隙間から吸汁加害し、側部斑点米を生じさせることから、割れ籾が多発する気象条件（幼穂形成期が低温・日照不足で登熟期が高温の場合）が認められる場合及び割れ籾が発生しやすい品種では、防除対策を徹底すること。
2. イネカメムシ
 - ・ イネカメムシは、他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、出穂期の籾基部を吸汁して不稔被害を生じやすい。このため、穂揃期以降ではなく出穂期に 1 回目の防除を行うことが重要であることから、近年、イネカメムシの発生が多く被害が懸念される地域では、出穂期の防除を計画的に実施すること。なお、粒剤を施用する場合は、散布剤と比べて薬剤の効果発現がやや遅れることから、処理時期を数日早めること。
 - ・ イネカメムシは、斑点米も生じさせることから、発生が多い場合は、斑点米の発生を防止するため穂揃期の 2 回目防除（1 回目防除の 7～10 日後頃）を実施すること。
 - ・ イネカメムシの多くは、昼間は株元に潜んでいることから、無人ヘリコプターやドローンを用いて薬剤散布を行う際は、株元まで薬剤が十分に付着するように、通常より飛行高度を下げつつ、速度を調整することを心がけること。
 - ・ イネカメムシは、イネを好んで加害するため、主食用米と比べて防除圧が低い飼料用米で発生が増加し被害が生じるおそれがある。また、周囲より出穂が早い品種のほ場、出穂が遅い品種のほ場は集中加害を受けるおそれがあることから、これらのほ場では特に発生に注意すること。
 - ・ 一部地域では薬剤抵抗性個体が確認されていることから、発生予察情報等を参考に、同一系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を実施すること。

斑点米カメムシ類及びイネカメムシの防除適期

生育ステージ	穂ばらみ期	出穂	出穂期 (出穂 3 日後)	穂揃期 (出穂 5～7 日後)	登熟期 (乳熟・糊熟・黄熟・完熟)
斑点米カメムシ類	1回目 2回目 (1回目の 7～10 日後)				
イネカメムシ	1回目 2回目 (1回目の 7～10 日後)				

※ 1. 斑点米カメムシ類の対策として出穂 10 日前までにけい畔、農道及び休耕田の除草を完了すること

※ 2. 出穂期：ほ場全体のうち約 50%が出穂した時期

※ 3. 穂揃期：ほ場全体のうち約 80～90%出穂した時期

※ 4. 生育ステージの「～日後」は目安

※ 5. 薬剤散布の適期は、斑点米カメムシ類の種類や使用する薬剤の種類により異なるため、各都道府県の防除指針、地域の防除暦等を参考にすること